

分割包装フィルム

認知度向上まずは国内

市場をつくる

丸東産業技術本部長

牛島 清高 氏



食品、医薬品、化粧品などの品質を保つために欠かせない包装用品。丸東産業は1939年の創業以来、包装材の製造で技術力を培ってきた。現在は香港やタイにも販売拠点をもち、海外へ積極的に展開している。今年3月には製造ノウハウや顧客の声を生かし、二つの内容物をワンプッシュで混ぜる分割包装フィルム「まぜるっちゃん」を発売した。その開発の苦労や今後の市場開拓について牛島清高技術本部長に聞いた。

「一つは設備の問題。技術的な問題は15年前もある程度クリアしていた。ただ設備の能力が技術に追いついていなかった点が壁となっていた。もう一つの違いは原料を供給する樹脂メーカーの存在。当時と現在を比べると原料の質が大きく向上した。それが製品化につながった」

多彩な提案で顧客開拓



「提案時、実際に製品を使って見せると、効果が目に見えて分かってもらえる。付き合のある食品、化粧品、薬品メーカー以外

チェックポイント

顧客の商品があつて成り立つ包装用品は、顧客の営業にとって縁の下力持ちの役割を担う。最近は衛生管理に対する消費者の目が厳しくなっているだけ

常にアンテナ成長に不可欠

でなく、製品への要求も高くなっている。それだけにどんなニーズがあるのかを拾い上げて開発することが重要になっている。製品化後の顧客の声から新たな気付きを得ることも多い。常にアンテナを張り続けることが今後の成長につながる。

「「まぜるっちゃん」の応用拡大、海外展開はどのように進めますか。」
「当社が持っているほかのパッケージ製品と組み合わせながら、お客さまへの提案のバリエーションを増やしていきたい。そのためにもまずは『まぜるっちゃん』の認知度を国内で高めていくことに注力する。海外展開については国内の需要や現地の状況を見極めながら検討したい」

二つの内容物をワンプッシュで混ぜる分割包装フィルム「まぜるっちゃん」